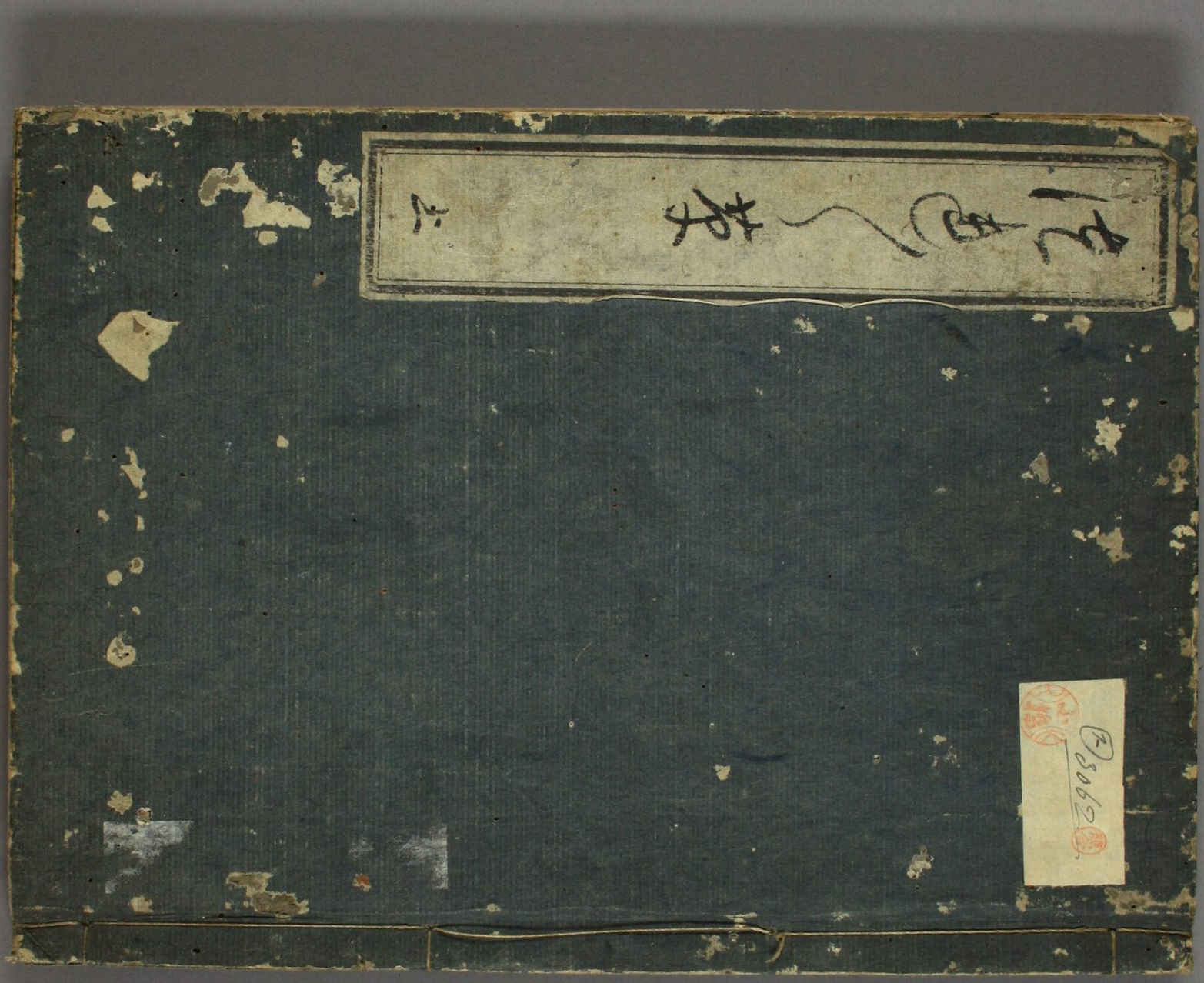

乃蔵の物語にはいふ。聖徳太子乃御墓をとり
ねそ。法の物語なる時もあるをきれ。しこをた
て。子孫あらせじと思ふなりと侍りなるとかや
あざし。聖の霧さ面れ時なく。高祖山のかふりを
さらでの三位をつるならひなりしが。いつに物のあれ
もなからん。世を定なきさこそいふしかれ。命ひつる
物をみるに。人ばかりむさしきかしかぶ。其
夕をまち。夏の蝉乃青雉とあらねもあるぞ。
ぼくぐと一生をくらしも程ぶかもこゝろのど
かしやあるにあしと思ひ。子と世成るにしも。一夜
乃夢のあちこそ世あぼとこそてね世にみんまくさ。婆
とまちえて何のはせん。命ながかまば辱なりしなが

くとも。宮千に角らねなどにふく死なんこそめや
さりなべかれ。生れどもなぬまは形をたづるにはなく
人にいでまじらうんことを思ひ。夕の日に子孫を
和らしてさう極く来をみんまでの命とあらまし
ひこまらし世をむさぼるにのこふく物乃行かれも
あらぎなり行なんあさましけれ
世の人れんまどうれ事。父祖にはあらば。人のんはれ
ろうなる物なかり。旬ひなどいかり乃物なるにあらば
く衣裳にあきものほとあり。なぶらぬ
旬ひに必んと初めきまとる物なり。久来の他人の
物あらふ女のたぎ乃あろうきをみんて。遊をこしなひ
なんは誠にはあしたぶへなどのきこうに肥あぶら

のめづらしくえならぬ御衣どもなりしべとさぶ裁
の事来までぬのまくなるに絶つまるせるなんるめも
くるしくいとまびしさそもやはながらへとむへきぞ又何の
まのくふりともなりなんとぞうちみるより思ひて大
くさは家居にこそおとさ後はとしたらふまし
後徳大寺のおとゞの寝殿に鶏あさせじとて縄を
ちられたりけるを面目がれて鶏のあさらんはなに
かはくるしかるべきぞ殿の御ふきがりにこそとて
後はあらざりけるとゆり侍るに後小将文のおはし
まに小坂殿のむすまいつぞや縄をひかれたりし
かばかの事めしおもひおもしまに後や鳥のむまし
あさく池の徳をとりければ御読んじうなしまゆ

読くなんと人のこゝろしこそさそはいとしくこ
そと見えしが徳大寺まもいかなる様へか侍りけん
神無月の時くるす聖といふ所をもてあるに里より
あづまへ事侍しまゝらるゝあるに音のおそろをふこ
なそぬそくさしこゝろしこゝろ鳥あり木紫ようげ
をくかまひ乃東なるでは霧をとるふものを
ぬり柳に菊りみぢなと打ちしたるさしがにもむ
人のあまばなるべしがくそもあらまゝなりとぞ
見るはどよかなる乃庭に拂はさなる棋子乃木れ
投もあはにかなりたるがまわりをさびしくかとひ
たりしこそさしこときゆそぞ此木あらしゝ
しかはしかはしか

ねずみハ鎧(え)をもちりきなつりハ琵琶(ひは)和琴(わごん)
なるまうさあらりてひまうつまつるこそはたまく
もなくかのまことものまことにちされ
人ハそのままをつゞまやかにおごりをいでて賊(ぞく)を招(まね)
き世をもむさぼらざらんぞいとろくべきなるより
賢人(けんじん)の富(とみ)ハまれなりけるこしよ浄世(じやうせ)とのひろ
人はざるよ力にあくせくくいへもなくそいか
ども手(て)してさらぞのところをかんでまりひさご
とつ子ものを人のえき勝たりされぞよる附木乃
枝(えだ)よりけるきるが風よみわれてなりけるとぞし
かましくてもそつ文まむきひて捨水も乃こ
ろうひかりんかのうちさそしりけるん孫晨(そんしん)八冬(ふゆ)

能(のう)よ事と施なくてかゝる一藝あらんことを欲(ゆつ)りハ
あまさよ子ハ鉢(かな)よへ持きあそびもろこしの人おほき
とかくしと思へだにそおろしさぞ知て世をもあさく
ゆめごこまての人おほかりも治まで色うれ
梅よりのうちからにも梅とふ春梅の
あはれを秋ころ淋しとへ人どもふりし和歌まどぞいきと
さる梅までかな一まさんともうさ言葉に梅ハ春の名
にてそこおかしれ名乃梅(とう)もどもの初の春(はる)め
紅の梅や色かなる白梅(らう)よりもわき乃花よりも匂(くさ)ふよ
よりやゝまさりて寝(ねざめ)もありて花ともやうく出し
さびつれくしてあまた梅ありしも南風ふきくるきて
あれてしくちり色をはまれぶ(おとだ)よなりゆくまで方(まど)

御伝名蒔絵乃使ひ[illegible]とるまゝ。
[illegible]とも志ぶく。[illegible]のいそぎにとりかさ[illegible]
ほしおこるゆるゝ[illegible]ぞいそしきや。追儺より宮[illegible]
[illegible]はたゞくこそありしろかれつとりの[illegible]
くらきは松どもとりして[illegible]まで。人の門[illegible]
[illegible]きこそしつまありさそ。何事[illegible]あらん。[illegible]
しく乃ゝ志りて[illegible]を[illegible]は[illegible]が[illegible]
さひがは[illegible]なりぬるこゝろ。[illegible]乃名[illegible]も[illegible]
かれ[illegible]人のくる夜とて[illegible]つるまぎは[illegible]
[illegible]なき[illegible]あづさ乃[illegible]は[illegible]とること[illegible]
こそ[illegible]りしかがくて[illegible]の[illegible]
かりりありとハみ[illegible]ど[illegible]人めづらしきあらぢぞ

[illegible]大[illegible]乃さ海松[illegible]てまゝ[illegible]
[illegible]なるこそ。又あかれ[illegible]
[illegible]にゞしとりやいひし世をて人の[illegible]世のかゞしも
[illegible]ぬ方[illegible]たゞ[illegible]乃名[illegible]のこそ[illegible]
[illegible]そ海とふさもおゞしぬべかれ
[illegible]のことハ[illegible]みるにこそなぐさむ物なれ。ある人
の月ぞりゆりしろき物ハあらじとのひしは又ひとり
[illegible]こそあかれなまとあらそひしこそ[illegible]
[illegible]ふまでなるかハ[illegible]月[illegible]ハさら
なり。風のこゝそ。人[illegible]ハ[illegible]くめま[illegible]よくゞけ
て。[illegible]くながるゝ[illegible]の[illegible]しきこそ。[illegible]
めで[illegible]れ。[illegible]東[illegible]人[illegible]

ねぶりゐるこゝろ抑しくれ酒飯の所給の事ハ
めでゐく傷なる物なりとぞ煙大事乃大段大臣ハ
おかせしまゝ
夜王乃聖文ハおりしまゝありさ海こゝろゆさしく
わりしろきことのうぎりとハ抑ゞしゝ經仏などい
ミてなくて濫紙などいふ事もわりしさとべて神の社
こゝろさてゞくなまめかしき物なれやものふりこゝろ
森のかしきもゐぐなるゐぬよ玉がきしきてして排
ゝ掻ふかまこゝろなどいふしゝゐぬかぬことにおりしゝ
伊勢契義春日平聖住吉三輪生布祢吉田大原
野松尾梅宮
鴻鳥川乃測測つゝなるゐぬ世ましあまゞ附うつり

ことさりゐれしゝかひ掻さゝひてさるやうなり
あらりも人さまぬ乃らとなりかゝらぬさゝろハ人あら
さまりぬ椎雪物いまゝゝだ誰とともふ苔をとゝらん
ぞしてアんぬいまし〇のやんごとなりかん沿乃ミぞいゝ
ちれさ京極殿法成寺などアんるゝそ志とゞまりこ
と変じにゝろさ海ちあれなるゝ御堂殿の絵ミゞせ
給ひて所園おりくよせらまゝ家沿ぞうのミ沿門乃沿
うろミ世のくあまてゆくさゝまでとおゞしをさ
時いかなん世ましもかぞりあせさそんとハおゞしてん
や大門金堂などちくまでありしゝど正和乃比
南門ちやまぬ金堂ちまゝ後ゐふまゝ市したりまく
まてとりゐつるぎもなし無量寿院だりぞ

さ海など板敷をきけあしの浦藤をうゑて布乃
もかうあらくしく沙綱家ども物ろそうぶらる人
乃さう我く太刀平法まで美様なるぞゆくし紀
志げかは物りへだよろいは色まりしかの意しき乃こそ
せんかたな紀人志づまりて浮なるさ紀乃きさひは
なるふとなるさ色そくとりしてゆんのこしをうじ世
物りふ反右などやりきつる中はなさ人の手なるひ
ぶるさすきひたるぶんおたるころぶまで其物り乃さく
ちまれ此此あるの人の文ごはしくなりていかるる
物りいつの色なりそんとおりふ言ふるぞかしふ色な
ましぶそくなどもんをなくてかうらすもさしき
いとうれし

人のなさ紀だかりかれしきりなし中陰の程山里
などにうつろひて便あしくせぞ紀所はあまた詠ひ
ゐて浮乃まぎどもいとなきあへる心あけてし日数
乃もや　まだるなどそ物はもまぬそその日ハいとなき
事れうだがひはいと事をなく我かしこ事ハ物ひき
志ふて先ちかくはゆきあれぬりとのまとうに陣り
て我更はかなし紀事ハ物りうべきしかくのるはハ
あなしこ紀乃生めいむなることぞなどいへなこそ
かぞかりれなるハ何かなど人のんを物うそおぼ種種
年月色ても露志るくまへあら孫どさうを此色
日ふまことしといへることなれどさういへどまきたを
かりへおぼしぬまやよしなしごといひてうちを知ひ

ぬぐらせ重うせ紀ふの中におさめてさらべき日
だらり雨うでたゞ丸まだ[illegible]なくそとまだも苔むし
木[illegible]ぬりうづそ[illegible]の月のこぞあとふ
よきてうなりける[illegible]ひおく無ぶ人あらんなどこう
あらゆんそも又[illegible]なくうせ[illegible]ゆうたふうだらり
のもとゑくきあれとやはおりふさらは[illegible]とふまぎも
[illegible]ぬきばいづまの人とかをとゞふ志らぎ年しの
[illegible]ぞんあらん人[illegible]をとゞては
[illegible]まびし松も[illegible]せをまゝで[illegible]
塚はさられて田となりぬまゝらゞふなくなりぬるそ
かれしき
雪のおりしろう[illegible]りし[illegible]人のがりいふべ[illegible]

るまゐて又とやるとて雪のこと[illegible]
[illegible]山雪いふかんと一筆のこまかせぬなどの
ひらくしかんん人の[illegible]事きくいるべきかは
[illegible]口おしき[illegible]なりといひ[illegible]おりしこう[illegible]
かりしか今はなき人なれだかばかりのるも[illegible]
九月[illegible]の[illegible]ある人よさそれ[illegible]りて[illegible]るまで
[illegible]ありく事[illegible]おりしいづる[illegible]りてある
いせき[illegible]て入まひぬあまたる庭の[illegible]さり
[illegible]となりぬ[illegible]ひ志めやかふうちうりて[illegible]
あいひいと[illegible]あるまなりよ[illegible]て出まひぬま
ぞなる[illegible]ことき[illegible]ふよ[illegible]て[illegible]
志ぞしかんぬるふ[illegible]を今[illegible]を[illegible]

月みるにつけしきまさりやぞそゞろかなしかりつまじりハいとお
しかりけりと詠まぞ見える人ありといへりぞかなしからん
がやうのよみ人ハ多く鈴木わかれんづかひよりよむべし其人
雅なくうたにかかりと覚ゆべし

弐四

今の内裏にくり給ひまそ有職の人々よみかわせる
ものなるゆへ公卿を雑しとて源は遷宰乃日ゝく
なりあるに出雲の遷居のくらき
乃完まで得くもちも多くて禁ありしと得るま
かりしかりけり花ハえらぬりて来まそふち
とあるかれどもあやまりてなきとさまふかり

弐五

甲書ハわかり貝乃やうあるがちいさくて口の和どめ汁
そなかにしく物ある貝のふくるあり。武蔵国金沢や

いかなるふありしと称乃着あるまでありとや給ゆかに
とこそあり

弐六

このうき人の代をかくしなるうきちかうすかし
かんぐりしとて人よりもるへうるとし

弐七

久しく墓まぬはいづかりうし心うれんと我物と
まり思ひしまそて雲霧ふなさんちるもるに女の手
より仕丁やあるむかりまぞひ物と終りぬりてこそ
あるふくうけかなれるさん海しうろ人そこに経と
人の中待しさもあるべき事なり

弐八

約り文為でてなくあかれる人のどもかの耐されねば
心をきぞきうくるつるさ海より西路こそ今更文
くやいなずいふ人もありぬべくれどあると実しく

りとめ賢を称ずふ人のさまめ小いはぐ智慧だいでくハ
いつかりこのつ王ゞ能ハ煩悩乃増ませるなり。偽てきて
学びて志るハ浦ことの智よあらばいかなるとか智ゆ
いふべき可不ふハ一條なりいかなるとか善といふ波こと
乃人を智をなく速りなく功をなく名をなし。誰か
志りさまれか法ふ不ん。おまえ速をなくし。通をまりる
まハあらず。本より賢通得失のさかひにおらざまし
だなり。浦よひ乃心をもちて名お乃要をもとむる
にくのごとし。方ゆハ皆仏なりいふにあらば称ぶ
なりさまらまと
或人法然上人に念仏の時瞻にをうさまて行をおこ
なり偽る事いかゞしてあのさかりをやめ偽らんと

ゆくれば乃さめさまらむなど念仏し給へとおしさら
またりなるいと言うとかりけつ。又性生ハ一定と思へ
だ一元不元と物へだ不元なりといはまなり。元を
たうとしゞ又ふらゞひながらも念仏せんだ性生をと
もいはれなり。元も又なうとし
因幡国に何乃入道とかやいふをれくむまとめがこちは
と云て人あまたいひまたりなれどもぴむまとめざ
要をおこくひて又にしまの乃あぐひをくらざりけ
まだかるなことやうの乃をの人にかん極べきにあらに
とてやゆるさゞるまなり
又月又日賀茂のくらべるを見偽りしに車乃おに
雑人にちへてそくかんしざりしかば各おりてらちはさ

りふよりくれどことに人おもくたちこゝろて分入ぬべ
きやうもなしかゝるゆりはむひなるあふち乃本に
法師のゐりて本のまゝにはいゐて物ゝるゆつまさ
つきながらいくこう絲ふりてゆちぬべき時にめをさ
まいまゝ家ゝなり是をゝる人おぎけつまあぎこて
世乃志まきものゝなかくあやうき枝乃とまてやさ紀ん
ありて孫ふるゝんまといふに家んにふとおりひまく
よぎれらが生死乃あ来たゞ今のもやあらんぞれを
忌く物みく目をくらまておろゝなる事ハ粉まきり
たるものをといひて穢ぞ前なる人ども誠にさふこと
うゐ事れ尤おろふひといひて皆こゝろをゝゝり
てぎくへいらせかへとて西をさりてよび入侍りまき

かゝるのことゝり誰ハゆりひよらざらんなれども
打ゝらゝ乃おりひゝ事ぬおちしてむ○にあらりけ
るにや人本石にあら孫ぞ時にとりて物に感ぎ法
事なきにつらまと
唐橋中将といふ人の子ふ行雅僧都とて数相の人
の師まゝ僧ゝ一ゝり氣乃あゞる病ありて年乃
やうく多くるゝなどにぞなの中ふゝがりていきもいて
ゞこゝりゝれぞさ海くふ法くろひゝれどぞづらり
くなりて目眉都などもたれまどひて打おりひ
ゝれぞ物をみしぎ二乃舞のおりて乃やうにゝ事
都がたくおそろしく鬼のゝりにゝりて目ハいゝこゝ紀
乃ゝこゝまつき家のゝど鼻になりなどして後ハ坊

乃うちの人まも見えぬ所ありおそぐ久しくありて
物をづらりしくなりてしまへなりかゝるやまひもあ
るまゝよろありなれ
其乃當法ゝ乃どやうふえんなる事にぴましうう
ぬ家の物くふくまゝちゝ物ふりて庭に荷しまゝ
むかんをとぐしがゝ物をさし入てみまゝ面乃格子
ミるおろしてさびしあるに東にむきて法まどの
よきをとにあきたるみをのやぶれよりかんまゝぐちゝ
きよげなるおとこの年廿ばかりまてうちとけた
まどぴにくゝれどやうなるさゝ面して机乃うへに文を
くりむろ前てかんおくりぴうなる人なりなんぞまづ
きろきなし

河中乃行のあゝ戸れうちよりぴとまゝきゝ男乃
月新に色あひさゝろなるゝ○ど法やゝうなる物察
ぴきけしぬきいと面へ法きたるさゝ面にてぎゝやうなる
まゝハひとりをぎしてぴるゝなる田の中れをそ
ど楯家乃露に物をもちつゝ色紙をぎ筆をえなる
ぎにふさすさひあるぴ者とさゝしきゝ人もあらじ
とおりふに掻りんうゝしまりしくてかんをくり法
ゆあぎ筆をあきやこそぴ乃さゝに趣門乃あるう
ちに入ぬ榻にたゝくあるゝ車のかん面にも物よりも
めとまゝうちしてぴ人にさへぎ乃くの文れ
おもしまゝ此にて法行なるなどさふゝふまゝ中と
いふ法堂乃うふに法師どもまいりたり物室の風

四六

よさそけれくるゝ宮ぐ紀拘乃匂ひを分ましむん
ちとて寝殿より清堂の扁に廻ふ女房のをひ風
よういなど人めなれ山里ともいはんづらひ志さ
つまん乃まゝに志ばまる秋乃聲らいぞさ行まるゝ
寝ようづきれくむしのこかごとがましくやり
あ乃ゑ乃どやうなり新乃東より八雲乃ゆきても
をやきんちして屋の内まくもろ事宣がこし
云世乃二位のせうとに宮景僧正と申えしいきらめ
て後あしき人なりなり塀のうちに犬きなる板
の木あるれば人板の木の僧正とぞいひなる此名熱
るゝにぞとて清木をきくまよなり三根のあり
あれば志りくゐ乃僧正といひなりいよく

四七

ちとくまりなるゐをなりまして為りなれば三位
なる塀にまくあるれば塀池僧正とぞいひ来る
柳原乃邊に強盗法印と号せる僧あつまなり。
あゞひく強盗にあひたる者に此名をつまふなるとそ
或人清水へ来りなるに光さまる尾の行法まだなりなる
がゐまとがらくさめくといひもて接きなれば尾の
にのるをとくハの給ぞととひなれどもいらへもせば
粉のひやうざりなる我家くとなまてうち後ぶち
てやくなるひたる時がくまじなり口ぜ死ぬるなりと
申せばやしまひ君乃ぞえんの山に隠まておはしまれ
がゐゝ今もやはるひ給けんと思へばかくやぞかし
といひなりあがこれこゝろざしなりなんかし

なり堂りといふことあて其此たるだけり。同じことに
京白川の人鬼ありまとてお浦とふ所ゆゑ西園寺ゆゑ
ありしかふ院へ下いるべし。唯今はそこくまなかぜ
いひあつりぬきしくみたりといふ人りなく宇ことく
いふ人をなし。ニ下たゞ鬼のるれといひやまぐ其此
東山より安居院魚へさかり侍しは堂条よりかゝ
さ海乃人皆小をきしてもし。一条室町は鬼ゆゑ
と乃志りあつり。今お川のなりより鬼やまぐ院
の御機嫌乃あたり。更にとをりうべうもあらざと
立ちたり。もゆく沼なれとまはあらざめりとて人
を屋りて刀をとるに地れたあへるものなしぐるゝ海
でうく立さりぎて。ぞてハ闘浄おとりて浅ましれ

どもあるなり。其此をしなへて。二三る人のこゞ
侍しをぞかの鬼乃見ごとにこのしるしを志めとな
里なりといふ人も侍りし
亀山殿の御池に大井川のあをまるせらまんとて
大井乃古民より作て。あ車を法くらまら稽重り
おなくのあしを結て。数日ふいとなといふ事
堂りなるに。大きめぐらぎりなれだとくなをし
なんどもつゐに海りでいふづらまゆてつまなり。板
宇治乃里人を先しくあしらへさせらまなれば屋
をとらかに掻ひてさいらせたりなるが。かゆりふやうに
めぐりて。あをくといふ事めでゐりなりぬるべ
にまゐるを志まるものハやんごとなれものなり

仁和寺よあり法師ぞ[illegible]まで[illegible]をおがまざり
あれぞ。ぬうく[illegible]て。[illegible]ひとり
かちよりまゐでくり。[illegible]などをたがみて
がぢりとぬえてうへりよくりさてかたへの人よあひて
ぞ[illegible]ひ法[illegible]ぬきくしにもるそ
たうとくこそおもしけまぞもまりたる人ごとにぬ
へのかりしは[illegible]かりしかど。[illegible]
ころないるれと思ひて。[illegible]ぞいひくりすて
しれ事よも。先達はあらまほしき事也
是も仁和寺乃法師。童の法師よなくんとせるを
名[illegible]とて。各あそぶ事あるに。酔く興に入あ
まりがくれなりあしかるへとさりて[illegible]

まばつまるやうにとる[illegible]をしひらめて。[illegible]
さしへて[illegible]に。[illegible]興に入るまゝぎりなし。[illegible]
しうるでくはねんとせるにおかしくぬるまに。[illegible]
こときめて。いぐ[illegible]ぬとほどひくりぞくとれば[illegible]
乃まゐりくて[illegible]たく[illegible]もちて。いきも
法まりあまばうちまくんとせれどたやせくさまび
ひぐきてあへがくれば。なりでせべきやうなくて
ぞあしなる法のくうへにぞくびくをうちうくて[illegible]
き校と法がぎて。[illegible]乃がりあて行くう
[illegible]人のあゆしきかるまゝぎりは。[illegible]乃
りとよさしいりてむかひあるりくんありさ[illegible]
[illegible]ゆるめ[illegible]といふもいづくりぞ[illegible]

人のかたりわらる鉄物語の事のまろきこうかい
なけきぞとしこそ思ふらん人をぞいとしと思ひて
かくしぞとぞていとしとしねたの物語しあるがさ
もらいてくゆゆくし
道ん あらぞ 俗所よりしもとうじ家よあり人は海
じりとも 好世と称ぐりんにうらへきうはしへ更
は後世ならぬ人なりぞ者はは世をとうるまうぐるしび
生れといでんと思りんは何の事ぞ夕君より
法人家をうつりかんいとなしいきましからんぞ
縁まひまそうはる物なれぞしづかなしでハ
ハ行しがたしぞうつはれむしの人はとぶれ
山林は入ても縁をあまとけ嵐をふせぐよりなく

ゆへあらまぬはぞなまぞのづから世をむさぼる
は似たるもたまりにあまへなどうなりんぞれぞ
とくおもむかひなしぞりなしぞなりはとて
しなどいれん 今年乃るまへぞひるは一夜みちは入
て世をいとりん人をもひ望あらともぞきりひあれ
人の食欲おりきあるべからは紙乃食あきの衣
一棒乃まゐあるぎのあり抱いくだくか人の法いへ
をなさんかしむる所をやとくぞんをやくたりぬべし
形はもづる所をあまだぢ はいへど恵はいとく善
まいちづくことれぞおりきぞ人をむまれたらんたる
しまゐるゆもして世をのうまん事をそあらさ
りしられぞまへはむさぼることをはとあてがぐいし

死にさ海に錢二百貫と塗ひとつをゆづりたりなる
と塗と百貫にうりくかまされ三万疋をいもがしら
乃あしとさぶ絶て京なる人にあづきをとまそ十貫
ばくとりしをて草がしらをとりしからぎ絶しけり
なとふ又と用にもちて極る事なくてこれあしこるに
如にかり三百貫の物銭まづしき身に海う童て
かくたらひかる海とふ色がる紀色ん者なりとそ
人中かる此僧都あ子法師とそんて心あうりといふ
名をつきたりかりとは何物ぞと人のとひかればさる
物を家をしらぎとりしあらましかは此僧乃かれに
似てんとぞいひかる此僧都こめよく力法よく大食
にて能書学生弁説人にさしぐまて家乃法燈なれ

もち弁にも物りく思はまたりかれども世をうらく
おもひさらくをものにそよろづ自由にして大事人
にしたがふといふ事なし出仕しく答猪などに
法く時もこな人の前をへまたにをまたず我おに
さへねまだやがて起とりうちふひて喚りたかれバひ
とりはねたちて極きかりと紀兆時も人にひとし
く寝てなりぬ此時我家にも曉りも
唸て祢ふたれだ昼もりあまもりて いかなる法大
事あまども人のいふなきいまは目さめぬまバ
いく我をいはぎ心をまとまして うそふさありさ
なとよのはなしぬさ海なれども人にいとはまは
よろづ極きれかり滅乃いたまりかるにや

六十二

陸奥の所にしたがひ事はぞぞ海まるるまはあら
ぞ浴胞衣とぞあるる時乃まじまひなりぞぞこれ
せまりのぞ此るまなし下さ海よりことおこりてぞせ
都本流なし大原乃里のおしきをめきまり嫌る
き寶藏乃絵にいやしき人の子うえたる所り
おしきおとしあるる所幾りさうり

六十三

延政門院いときなくおはしましける時院へまいる
人に陸ことつてとそ申させまひ事る法師
ふたりが牛乃法のもじきぞなりじゆぶまりじ
とそ君をおわ極る。こいしくおもひまいらせ給也

六十四

後七日乃阿闍梨武者をあつむることいつとうや盗
人りあひにくるより宥恵人とてかくおとしく

ぬにくり。一人乃相は此洛中のありさ海にこそ
君面なれぞ兵を用むるぞやうならぬるなり

六十五

車乃五緒を必人によらぬぞ所につくてきらむる
ぞき位にいたりぬまぞ乃る物なりとぞ所る人給
らまし

六十六

此比乃冠は昔よりはたるかにたくなりたる也古代
の冠擁をもちたる人はぞとつぎて今は用ぬ之

六十七

思本開白殿ざうりなる幻柿乃枝に鳥一双をそへ
てぞえてふつまてまいらせ所ぞ鳥飼下
も鞍武縁に給らまるありなるに花に鳥法くるを
ぺたりさふらひ。えぞふふつ法くることも存知は
ずとりそれぞ猪飼に鳥にまぞ人にとりせ給て

たとおぼく侍る。右の和尚
月をめて花をなる。いかしへのやさしさ人は
おくよありけるとよみ給ひけるは岩本乃やしろと
ころ承りをき侍ましとぞのまゝとよりはなかく法存
ぢなどもこゝろさふらはめとぞやくしくいひ
ありしこゝろいとしくおほしつ。今日川院を清と
て。集どりにあまた入ある人をあらはる時つゝ
百首乃言をとゝて。のふつ乃社の法おの水よ
てまて手向らまゝり。誠にやんごとなき紀なまれ
あて。人の口よ侍る言おほし。紀文詩序などいとしく
かく人なり
鏡はまゝ子にかゞし此押領使なとといふやうなるを此く

あるゝが。去おほしをとゝ。ゝ後門よいとし紀茅とて鈎と
りあつ。ぼくやきて。唫なる事。ひさしくなり
ね。或時鈹乃うちよ。人もなりけるひま我なりて
歎おそひさゝりてゝ。こゝろ見せめなるに鈹の内よ兵二
人おきて。命とおしまひ戦ひて。こゝな追逐してなり
ぬと不思議よおぼえて。目はあくよ掴しまふとも見ぬ
人くのぐ。まゝらひしまふ。なる人そとゝひなれは
年来ゐれこそあきなく。我し法る。去おほしつゝり
さふらぬとのひてうをふなりぶく位といふしぬ
だがる速もありなるにそ
書写乃上人を法苑漢編の切つゝりて。お根淨よ
かゝる人なりなり。鑑乃かり屋よ立いらまゝなるに

過しずかくいへど仏神の尊き将接する者乃信心さうの
信ぜざるべきこそあしけれどおまへ世俗の塵芸と会
ひよ信じろうもおとがましくおもひうくなどと
もせんまされどおりさへ酒もしくわひらひて
倫よ信ぜん又らずひわぎあるべからん
識乃ごとくよあつまりて当座よいそぎ南無よはせ
弥勒さまありゃ中さまあつま光さるあり三らおあり
行ありあり摂る衆ありゆくまって綿よおくぱそるむ
和尚のことぞや生ともさぞり利とりとかれてやむ時
なし身を命をひて行るもとりまし出るさらさぐ
老と死とふありぞのさう御事さとやかしく
念く乃ろまとてまししずおまへと結ぶまのめの

ひろあらんまどくつる者へおまへとおそれざとかりおかり
おがまてせん足乃ちらきこと残りへりかんふだへおろろ
なお人全文を見とおし常住なることをおもひ
て変化乃理をきつ縁でたり
律まくさぶつる人全くいふなんぞらんまぶらずを方る
くたぶむとりあるれこそうよおされ世よおもてくだ
ぶなかの恭よらぞられてまどひやすく人は滞じ
りれど洞まその世よおもてぶひてさらずらんやよあり
むぞ人またりつま摘よあるそひ一衣やかしこ一衣
いまほこぶきるさぎまれつことおり多利ときぶり
おぞりて得失やむとされまどひのよまで
子禅乃中よ学をあらはんてしつまていそがりしく

いさゝかまど獨さり撫せらまてぞくるに成よりなり
何る者小野道風乃ゆゑ和漢朗詠集とてもち
さまりなる我或人渉れ傳うなることは傳しじな
まども宮条大納言えらはれぬる物をぞ風かんこ
と阿代やさまざひ傳らんおやつなくこゝろといひなれ
ぞ御ふへぞこゝろ世よありがゝ記物は傳りなれとて
いよく秘蔵しなり
奥山は猫まことといふものありて人をくらふなる
と人のいひなるに山なら孫ともおまらるも猫乃
ゆゑありて孫こまゝにはなりて人とるゆゑは何なる物
とといふものをなるをなに河孫泡仏とるや連河
しなる法師乃行鞍ちの鳥にあらなるがきさてむ

とりありうん方はんまとべきまゝにそとおりひ
なる比しも或所にて鞍ふくるまでまゝ所し家
ぞ心とり物なるにぷ川のきこまそ鳥にさく猫
まゝあやまゝびあしりと人ふとよりきそ屋なく
うさ法くまゝに首乃ねどをくりんとも肝心をう
せてあせがんとまるにかりなく足をまゝにぷ川へ
こ孫びへて鳥すゑよりや孫こまゝにや猫まゝと
さけべぞ鞍しより松どもとりてたしいまよりなく
ゆゑまゝぞ山なるりにゆゑしまる僧なりおもいりにそ
河乃中よりいざ記おこしまれぞまゝ所乃ゆゑ
どのとりて麻小鞍などに懷にはなりなるをあに
かりぬ鞍あるまして鳥すりたるさ海まゝぞふく

いぢるに二乃矢師の前にそむとつをおろうせんと思
ふんや。懐魚のんぶつ。しらずといへども師あまた我
しるこのいまし。我万事にわたるべし。乃を学する人
夕ゆへ。我あらんこと我おもひて。かさまて懇に修せん
ことを。我はいたんや一判。乃うちにおひて懐魚の
んあることをしらんやたんぞ只今の一念におひ
て。まちにまちることの甚うれ
牛をうる者あり。賣人明るまあらひをやりて牛
をとらんといふ。我乃まに生死ぬ。ぐんとまとる人に利
ありぐらんとまとる人に換ありとかたる人あり。是
をさてうへたるまれ。六生乃主誠に換ありと
いへども。又大なるおあり。まあれは生あるものの死のをき

ことをしらざるか事。牛頭にまたるまり。人まて同じ
ちらざるに生ある死しぞうしさるに主に存まり。一
日乃私万金よりもおもし。牛のあらひ鵝鳥より
も猶し。萬重我えて一銭をうしなりん人換あり
といふ。ぐらんといふに。皆人喫て。まあれは牛の事に
かざるべからずといふ。又云されば人死をよくまは
生我ならばべし。夜命のうろこび日こに角れしま
ざらんやおろるまる人は樂をとまとれていぐらん
しく邪の事のしをとりとあれば賊をとすまてあや
うく他乃賊をむさぼるに志こつことなしいかる宮
生をとるれしまばして死に臨て死を恐れ此ことなり
おるべからまと人皆生をしまのしさげるべきをおそれ

花掛へかけ花をかざれざるはあしく花の紋花
紋らをもつてありぞし又生花の掛によあづかる
ずといふぞ真のこころをえざるといふべしや
いはんや人のいふく喝ケ

九十五

常盤弁おほせつけし給ひしに勅書を持たる小面
あひだありてのちよりかけたりけるをおもひなほし北面
ありけるは勅書を持あずかりける仕へり着たるは
かのごの者はその君に注ましまさるをぐさと待
あれば此面をさずけられよそり勅書をとるのよ上あがる
さるこそかんまなるべしおかるべからんにとぞ

九十六

紛のかりけるよ結をはくるもありざるまつきを候ふべき
ぞと四の君識の人よ勢申付しける雅をはなち事表

紙ハはくろの面結あれども紙もし雅おしゆ
の紋をおもおく本よつてぽざ紋よ紙よはくるものは
のことおりを仕しき一さ

九十七

めあり只ともいふ男よありぐちそこはさされあるへの
あまをとりそくはまねまぜ罪い稀とあらんとりま
ぞとく下

九十八

三筋よはたそでぎも物とはいふ申しそこまで物数紙
ありさぎあり方よ風あり恋よ嵐ありぞ四よ賊あ
小人よ賊あり君子ぶ仁義ありて傷よ法あり

九十九

たとえ花もかつまのいひとさけることとりきつそ
一言芳談とかや名づきをあれたまふとかん仕しるは
よあひそおぼえし事なども

一。志やせまうじせぎとやあらましとありしかはいかやう
きせぬそこなれなり
一。何世を思ひん者ハ糀粘瓶一も持まじき事也
持經本等に至るまでよれとれとしかしなれ
ことなり
一。遁世者なるさまことにけぬやうをとるひてさ
ぐる。云上乃やうまであるなり
一。上藉を下藉になり皆者ハ画者になり。遁人ハ
鬼になり。能ある人ハ無能になるべき也
一。仏道を極ぶといふ事別のなるなしいとまある身
になりて世乃こと我ゆかけぬを第一の道とし
此外もありし事ハおぼしさぞ

塔川おぼしき異男の為れしき人にて云ふとなく
色差をしれこと語なり。御子基俊卿を大理になし
て庭勢なとなりれなるに。庭屋の庵樓みぐるしとて
めでさまく津くりあらたゝるべきとし給ふまけ
なるに此庵樓ハ上古より傳りて云給とぶらせ教百
年を經たり。男代の云摘古幣をとりつゝ規模やうに
さまやさとくあらゝあめらまでなれよし。於実乃法方
等にしなれば。その事やうになり
久我おぼしハ殿上にてあるを見しけるに主殿司太郎
とまりなれば御ぐりをとりしせよとてぞなりして
うめし事なり
或人住太后乃節會の内毎をはとめしまゝあれり

日暮たると綿し雲霧は跡に多り情緒を移ず
さしぐさ何也。信をもまりしに礼義をも思ひじ。しん
をえぎらん人を捨狂ともいふ。あし情なしと
もいへ。そしふともくるし。海じ。ぬむともきていまでし
罪十まも何まりぬる人の夫めきたるかたぞのづりら
悪びてあらんいりぐもせんことにうちぬて男女の
るぞ人のうへをもいひまりふることぞ。すげなくもんらる
しかれ。なにゆふくみぐるしなるぞ。老人のうちまた
人にまじりて真あらんと思いひおこるぞ。数なるぬ
方まで。世のおぼしあるる人をぞなさまにいひさ
ふまづしきにまに酒多くみに家人より答無せ
んとさらぬきたる

と。前川のおかいの後。遊遊へおもしろるにありさ川の
こちりに。あれなかれ無るにまで。さい王丸。御牛をゆふ
まりかれだ。あがきれ。あ板までさことかくりあり
と。為教御車のしりにひろかが。希の乃童なかる
にまで。御牛をもおふ物といひさりかれだ。おかいの後
御童女あしくなりて。どのまま車やらんるぞ。さい王丸
に酒さりてえしらじ。希の乃男なりとて。御車に
頭をうちあてらまにかりしたるかのさい王丸ハ。
奉る乃男料の御牛飼ぞかし。しうづまさ夜に待り
かる。女房の名ども。一人ハ。むさ。ちこ。一人ハ。こうち。一人
ハ。ちふはら。一人ハ。ととうしとつまらまかり
富河系といふにまで。ぞろくおりくなつまりて。丸

あしたに費より乃みまりて。ゑん白き釈氏。ゑん白の養かれ
尭慈悲勝まして大極殿よりふる翁乃かたまで
やうえんそよし。辛郊生の記よ待ちとゝや
飯乃おそぐ無東岸枕なりおのそ東我枕し南
陽氣とうくこさおよ孔子を東首し給へり。寝殿の
たつしひ。或者南枕常なるも也。白河院は北首よ御寝
なりけり。小いむるよし。又伊勢へ向ひ大神宮乃
御方へ御足をさせ給ふまじきとて人々より経
大神宮の在所は西つふ向を経へ当るあらさむ
ゑる宝院乃法王堂の三昧僧ちかふしの律師ありや
いふ者或時鏡をとりて顔をはたくとみて撥髪の
かんのくて濃まし記てとぞあまりふんのうくおかれて

濃くへしゝ記しらしよれぞ。きゝ經おきぐ鏡を
おそれゝぬぶふふとらしず。人つゆのどりうるみなし
御堂乃法王あぞりふあひそ鏡居ありと云給
しとそ居くて笑ひし
かしおかなろ人も人のかゐおりて其まを
むこうぞ僧なり我をしくし我をしりて
とうりあるべかくはされだわまをとゝの後世富家
人らず為しがちらんすれどもしてぞゞの者あ
なる我もとらしぞ鏡乃法王さらとしてぞ我の
新ぞぬとしてぞ年の老わるとももとしじ。福光
おのともとしして死のちさらはとそすぶ意気
為乃つぎ僧とそてぞ。身れよの燈をとし認

中さんといはれけれども女房なども奥
坊のあらがひなりおのじく八所おまてあらそはるべ
負さらん人八所所をまふあらるべしとさらばとて
所おまてめしあり勢らきたりけるに奥氏おさまく
よりさくなるひ給れどこれ志らぬこと給りぬれ
まつつまやうきつのをぐ中くおまいりくまんどう
どかしるすはいるのるに給らん所らんと中されけるに
ま大納言入道をとつまりて是ハそぐろごとなれバ
いつまもたらどといはれけるをかとよりふるさ
ハまり給らぜぜぐろごとをまつ〇なまんとさらあ
中つと中されけるまでぞ大納言入道まけまなりて不藻
いるあしくせらまありけるとそ

くましあつまげ放法皇の所おまさふらひて所所
のまいりけるに今まいり給る所所乃今くと文字
も知給も得ずされてそらに中給らぜ本当に所
詰ひじあるせらまし給まてしぴとつも中あやまり給
らじと中けるは何しも六条右内府来り給ひて
房ついとくまゐるひ給らんとて先ハ志ひといふ文字
をいづまの番まる給らんとされたりけるに古篇
まひと中たりけれども才のほどとてまあらはれたら
今をさぐりまて以へ極りしさきらなしと中
されけるにぞまふなりてまるでまけり